古文孝経注解

紅の會文庫

猿蓑

晋其角序

俳諧の集たるゝ事古今ふかし。仙花寺輔文曰人不通古文馬牛而如襟裾。とゝ八百人一首を無名のまゝその人柄にて巻頭に食し。殊に天智帝を格別の法あるよしにて巻末に夜帝をうら住の市初夜をうら二を女帝にて衣食住の三ツを人にして上ときなき大切のものなるべしとゝ。これこそ実に衣食住の三ツ俳諧の道八百の列なり。はた人たるわれらの発句にて人倫の大事人情の変化月雪の風雅をも又我邦の大事なり。詩は和歌の二ツにて笑えるを赤くなるべきなり。されば和歌の二ツにて笑えるを赤くなるべきなり。俳諧の基たらむ。されば此境を一味を五十さてその高わかるゝ俳諧を書るを古今にわかるゝ解しるゝむるやいかゝもて今を解てくいるをて古くをへ解てへられて又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出へき係りをもつれて山伏〜る給れ出ていまさてはて
無仏不安にいたりて元治元年出仕るに付をつきをおもひ得大
寺へ参り此すをかひきりーホ反祝の御祈願日ならぬ得るまて
八幡宮へ参詣文中されけるへ共ちりて行まてを五代名のさとれ
さつるを五代の五代名メアイウエヲ仁名ちこと五とをて文ちよの
祝〜一武勝のみをひをさひひりむ此義を孔子本伝曰猿を五ケ
月みて生る性音を同るを生まて名ちて一反祝の法乃おろそかに行
ましをなりの入なを アイウエヲよくひきて吟るぶむ此なを
出ぬて只俳諧を祝乃入さらんをおそとて我名を祈つとろ
保名神ける山中にて猿に小心義をこそて俳諧の神を入名れ
はしをちまち武勝のなをひ叫ひひむあられおそるつき幻
術すこれを元をてはは弟を伝ろをて猿このをて名はは
されるをこを序をおれをこを山をやりこを名と合せて古来

乱世のなりけるあれみおるをて書

芭蕉系私る云猿みの集れ序晋子ちをかて二文ちて公和の
稿ちを比文の書さを今の人へ行とをあるや行れをちをを
ちへ名の自著を彼小向を行ををれをて主ををこを
ちをひちを

冬

[illegible]

芭蕉

一書に少童の句は芭蕉の父よりして代々俳諧を[illegible]

[illegible]

千那

[illegible]

九七 金葉集

[illegible]

[illegible]

[illegible]　正秀

旅衣[illegible]

成美云詩経名物弁解云ヒヒヒヒ一名ヌマクラ[illegible]此又浮[illegible]仮眠

[illegible]　史邦

[illegible]

[illegible]

[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　曽良

[illegible]

[illegible]　化水

[illegible]

[illegible]　ヒガ

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

新田の稈敬　[illegible]　昌房

枯果る稈を後拾和歌に新田の稈又

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

三文一物よ　れのしもあるべし

夫木集　衣笠内大臣　時雨ふる枝の柿と考られて　時ふの京柿を　[illegible]

[illegible]の柿よ　十月　宗葉

野べ　あさと　[illegible]

[illegible]

こがらしや　[illegible]　人の白い　芭蕉

[illegible]　元禄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶壺記　越人自解

成美曰伊竹孫曰吳服屋製作羅雜賣以供朝夕龍乎士將入
城使吳服遂報曰日蝕乎士出戶觀次吳服曰視日早晚又
亡　伊　愚考龍乎士語孫曰乎士將入城謂吳服曰視日早晚又
午以報吳服遂報已出矣而有蝕也乎士出戶觀次吳服
即出戶又入座　合掌坐之乎士笑曰我女鋒捷矣是延七日化
ちし　さそひこれてもなをしべ〜ゆ〜ゆ〜伊ちをとこ一行ちよ吳服女を誘之
とゆてちをとこ物語りなのうちて和ゆ始ちを陳晦伯ち天中記ち曰化
稱茶父下寒移值則不復生故聘好必以茶為礼因有所取ちれ
ちて亦信ぼちをとこ物のみやけちを茶ちをとこ物ちて一家物ちを必ちを
まひをとこ吳服女ちをとこ物ちて礼ち茶ちを寒を下ち生代ちを拉望ち竹ち
必持ちをとこ吳服女ちをとこ物ちて福ち拉ち外一物ちるすハ命伊列ちれハ
伊ち取ちもし茶人のちきちをちるーー人ちきち風物ち化ちをちるうう
一家ち物をちるちて元ち一家物ちるちを茶のひやの空ちを
ふむの金此越人ちあち以茶ち勝ち物ち使人ち又再ち而也了

[illegible]

この[illegible]の[illegible]れ[illegible]折[illegible]れ　　[illegible]

[illegible]

十[illegible]　　元[illegible]

五文字[illegible]

こへ[illegible]　　[illegible]

四機法法で冬柱丹の行　紀色部国風俗傑英華本畏雪雨歌

[illegible]

草庵

[illegible]

○雑五行書曰十月家日食[illegible]　　尚白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杜荷鶴[illegible]　　[illegible]

今の世高き家なれば

新あらたまりこゝろあらん　名ばかりの

新名の名所とてけなるべき　風流の人歌

なれどこゝろ自然と胡水のあるべきを

しおおきあかけてんとこゝろあるべし　其角

榊ゆえ事始よりのうつり　赤榊　良品

小榊　神みくじ

一書に曰く天照大神の高天原にましける時に天忍穂耳尊の神供御
備の時に用ゆる所の赤榊を用ゆる事有り赤榊八七榊の一種なり榊なり
然れども一書に神供御すべて榊を備ふる事は大神宮に
榊の榊を云ふ古事記に云ふ三角榊と云ふ
書紀に云ふ色榊を用ゆ云々一社の榊なり又延喜式に云
神供八年の正月に盛りとなる榊八榊と成す又三角榊と云ふ
榊とは云ふ八榊と云ふ八角の榊なり榊とは八角の榊なり
榊とは云ふ○土貢帳と土貢帳と二記アリ三記の本依良帳より云ふ
榊八榊の榊院の榊院宗良久　神代の榊の榊のうきうつり
榊なり榊なり榊なり榊の榊を解て
榊なり榊なり天忍穂耳尊の解榊なり

成美云榊山井に云ふ月一日に小豆飯を赤榊とする
愚考按四月に魚肉を云ふ赤豆飯を
事の榊に云ふ心定に又四月書に契仲云ふ八月に
小祭に云ふ赤飯を云ふ赤榊を
赤榊とは云ふ

水仙　水仙　不玉

散る日に六月五日中水仙の榊を云ふ別に花榊
三位の水仙花を云ふ

五七の日家あり

と云ふ一説に云ふ中に榊を云ふ

いのち世にたのむ事やみそぎ榊　且来

おのづから生ひてあらぬ事を咲ひこりてあらぬ
あるにはあらぬの葉を世ひ又人の花月に藏をあれて人

主毋[illegible]

[illegible]

[illegible]

年中わすれ給ふ冬至八一陽来復て陽気初て生ずるときくれへ行て新たに
つなのかみとあらためられ
徴陽を養ふて又好事を設ける
伊姫と姫祖　一陽来復とて　つなよ　後新の家名なるべしとて
一歩物生民の祖也冬至八五十大切の日なれ　寅五ツ　元日より年号新
つくれ日なのるれ小寒に於ては出行又は家業をみ立の
寅五八刻を武帝神亀三年十月己丑天皇大安殿に生御ありて年むのかえ辞
を受給ふ又翌日年むへ姫のまゝ姫武天皇延暦三年十月初日始て
行ひ給ふ　九代年田祖と免さるゝ　九八その年きゝ　を為て　みたれ
天皇と京紀　三年四月十月小ちるを大ちるなる十月初ちるを年むとなる
て行ひ給ふ　彼赤松の日の詞書に寒月初旱の比年むとなる人なり
初の旦の心にて書くとなり

木毫や　おとひかれて　歌の面　　茂境

月ときすとなるこのある風情快を人の
よるもなり

こゝにくハ　初ゆるぶを　はゝ　ゆ　ゆ　ゆ

おハ　初ゆ　さるるなる　稔を
合歓

おゝハ　ゆ　ゆ　ゆ

猿のあしふみ宮ぢや宿ちとせ　実邦

猿ちとせ猿弱れば鳴うぐ

沿ふ山口の口はのわれちとせる　みさを

月の皓しう猿れ来

つつとう雪にすゆ立てつもちとせ　千那

雪の宿ちる板をうつうつ

矢田れ松や浦のちうれよ　つもちとせ　凡兆

一書に矢田の老人御お教答の事侍きれり

筏士りえうれあるや　おるの中　本郎

ちうれ者る筏はおそれそうるの先たつつれしう己

うつ世そし又者そうれ者ちやまそうそ久とつる伝ち

れ底をうて寄さのの山鳴ちうる　みさを

このものにうきうれうてきうるかしら白い人ちうそう

ちうそうそうこあて吹ゆ小のやよたよ孤体をちうり

余者の所へ居伊者歌故れの所きまるて一度ちうそうつるるいうふころ

ちうる立て松のつて松ちうつ年ちうの海　路通

のやうちうる所ちうれや

れ年又年者来すて月れうう芭蕉翁のいうく

去来抄に曰く其の夕雨おびただしく降りて先師名月を宴ずべしと

名月や水に雲ある時の雨

秋の柴戸とはるる出板の後大きなる戸なり

この木戸や涼れさして行く月の

去来曰く芭蕉翁の句に仮令出板とおもふと改めきすなり

ある秀逸なり一句大切の仮令なり

猶抄曰芭蕉翁の句の

木戸五六寸ばかり開きたるを

郭公なき出たる宮宮の

郭の月こなしてとりわけ出るをいふ

人もなし

名月や

門に蒲を刀

旅

暮

然るに八月七夜の時雨の山のかなたとやすらひ

月の海

名月や

高陰の

伊賀の愚考秀逸なり大切とよき句なり

宗門俳諧

月の海

名月や

部屋

知

月の海

名月や

人のうくとしてうるはしく

いるるうるはしくして

ふるとは

出

公羽の御の句に会をもうけ

会表

井江

去来

ゆかり会表

芭蕉

会表

作者公羽の

氷

月

探

資治什物記ニ白珠数の事一百八有表宗八灯脚一磨轉之則成百八之仏如伝教大師之授給
又手数珠曼陀羅咒経白檀 氷ニ[illegible]
信ニ公鉢宣基莫ニ云又経眠[illegible]
云樒子福子信蓮子福子信水精福子信[illegible]
三十六根ニ云[illegible]
西品云仏生涅槃三世会
百灯脚也

うるはしき花の葉ちるハ後世まで花の事をこそ
こころのくへまた思ひ出のたねとそいはんとて
和歌ものさとしつるまとあるハ
時宴ハ花をその縁にきるものの形又ハ花を名目新取物ニ云
軾ニハ角の笹ニ縁ニ取るものの名ニ云

侍所きたうこうはたの事　史邦

ちの書の中ハとうるうあるたうみ
わるよりもあんのそなたにハ例ニ仏ハ
おのけの名ハよりて中ハ立ちるくちんそ

桜樹の華に寄せて恋の事　師重

厨にたちそ色ニ[illegible]
の数寄ちのさとちよりあ[illegible]
木武のくちあ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

静けさ[illegible]
こんと[illegible]
[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

出来るまで　画好

[illegible]感をけさ不二の拔折さるる
[illegible]
拔さるるこそ[illegible]の閑寂なるべけれ

秋雪やうちよみあまる人も世　[illegible]

[illegible]

[illegible]　史邦

[illegible]

[illegible]　知白

子は[illegible]

[illegible]

探花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤茶碗は日蓮宗の日心の味を以て[illegible]
日宗也と宗徒を桔木を岩の紙[illegible]
宗也大を夜の[illegible]
格と[illegible]
と知[illegible]
宗[illegible]
三の[illegible]
を心の味とハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の五文字カ有て[illegible]

乙州ノ新発句

人よ笑へこのとやけてうき世もと　芭蕉

弱法師　ヨロ

[illegible]　元禄

年の初や百姓又も[illegible]　長和

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　路通

作者三界無安の事をもやはり作りたり

[illegible]

年のくれ　やはり世をうの人の事　桃風

元禄五はるより世をきりぬけ年の暮年の

旦のことをいつる

なれ部

[illegible]　[illegible]

[illegible]　本節

[illegible]

一書に形取れるつくり井ろ[illegible]

形を模して[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　光廣

武蔵に於て拾ろう八東西ろ[illegible]

その[illegible]八東西ろ[illegible]

南北ろ[illegible]

[illegible]　尚白

今の[illegible]

[illegible]

[illegible]　化竹

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

たちまちたちやまのうちん角　樽　実邦

ひとすがらたちまちまちまちたれば城郭の秋しる
は月八月半ばるひの

入おりひきたり中や　たちまちきん　羽紅

うのうちにおりまきたれ前うち雨

おりまきす成ちかしこのわうちうち　大うち

まちて南うに成ちかたのこちるものちうち上へ
うちるおよ信濃や成ちうに成を接ちてとれ新たの
ちけきちすを復笑ちうちうち

こひたち　我掘ちてちうちうちきん　拾安　奥州

まうちうしこちちうちうちうちうちうちうちうち
人のいちうちの成ものうちすて衣のうちむ

うちうちち世世のれれちひちちうちんちあうち人
ふ掘ちてちうちうちちちうちち拾ちてちうちうち如悲左

王後人行と宮橋巫間谷山本安部祠別後同明月君徒聴子親ちうちひ仏ちい
ちれうち国秀のうちちに一天とうちうちちて拾女ちうれ新谷集ちうれうちと
白ちうちの氏の名岐うちて和之法のちうちれ何ちいちれうちて不伊ちれ
唐士和歌大橋小左夫士ちれ

松島一ちうれうちうちうちうちうちうち窟のを衣ちうちよあうて

松亭曰ちうれうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

松一句や　掘ちうちうちうち　きん　芭良

伊ちうちれ人ちうれうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

ちうちうち戒をちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち　芭蕉

ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

山ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

まうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

遠ちうちうち

ちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

西行法師

旅歌をせるに

[illegible]　曲水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

環器の雲[illegible]　餅ちるれ　宗祇

[illegible]

さびしさ[illegible]　尚白

[illegible]

大切やこゝろをよれば[illegible]　惟中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荘子曰有所謂蝸者君知之乎有国於蝸之左角者上曰触氏有国於蝸之右角者上曰蠻氏時相与爭地而戰伏尸数萬逐北旬有五而後反

一つ角ゆるくまがりよ　芭蕉

詩書次第あり角の名称あり楊子の書に牛角の名称あり
しかるに今移者をつなぎ牛の角をつなぎ
情を移せる所用とはなし牛角を牛角にかけ
を新へ

赤ちゃんがいわるの高書を帝氏はこの蕉氏にちをにけるものうち
蔓延と書句書曰連綿と息せとき

五月雨ふるあるをまてしばらくの月　芭蕉

況文曰附螺脊負殼者曰蝸牛
無殼曰蛞蝓本草云
陵螺と書り則雨雅云云と訓す

雨降て人のうすくさきうつ

こわれ蓮の実ひとつ　芭蕉

空ときうつくしむ
書付の感ちも

三月十日

蛞蝓やうつこと五月の雨　芭蕉

蛞蝓は水中の事海を冬の日は穴にはいりのまを鏡いろ〳〵なるやうに
よみ〳〵へきるまの夫は月五月のうつくしき
三月の花ハ物をうつ集まる

たわけ仔のうつくしさ
このてなかきあり

蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと

三月十日

蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと　史邦

蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと

弁地曰蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと
ちくしうのこと〳〵ハ秋を色うつくしきのこと

三月朔日ハ秋を色うつくしきのこと
ちくしうのこと〳〵ハ秋を色うつくしきのこと

蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと　史邦

蛞蝓ハ秋を色うつくしきのこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の何をかたとして白髪とす

[illegible]

本邦第一の剃髪者[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出ねの家にて

[illegible]

一書に[illegible]

[illegible]

法隆寺伽藍縁起并流記資財帳に[illegible]

[illegible]

[illegible]

二歳の時二月十五日東方より[illegible]

[illegible]

[illegible]

四の御門[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

病後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　里東

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　夕　　史郎

素牛さく茅花を

白雨や茅屋一軒[illegible]　　[illegible]

白の俤[illegible]

[illegible]

日[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

[illegible]

日の[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

水[illegible]の飢[illegible]

[illegible]　　仝

主[illegible]

日[illegible]　　[illegible]　　正夫

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]　　

[illegible]　　千邦

[illegible]

[illegible]也

月降や児の[illegible]　　[illegible]良

月家雅と[illegible]月の影[illegible]事

[illegible]

[illegible]月降[illegible]

夕々出や嵐　　吉東

山元[illegible]降今の[illegible]

[illegible]

[illegible]

考嵐は先山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　之道

[illegible]

秋は郭

秋[illegible]　　[illegible]人

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一月九日[illegible]

[illegible]

[illegible]

八重をとぶまはぬ蝶のつまの
書る序なん

まわきり　桜はなべて花の中　仁兆

久八風体文道ちまわくまわるを花して桜人
蔭と陰の別ひとつ山にて

たちかへるもかすみの内にて　知事
和さまるおもて

蔭ちまわく桜風れハちるもまちち
ちるを見ぬ人もあるとは思ふ花を思ふまち
たのもるるて侍はまをおるものまとさ山ていまわくと
桜　新抗方集ハ枝日蔭ハ遠ハ老を遠ハ道定楚外見芦芝白花
指南似招袖疑是節生任氏芳又古今集ハ桜の枝ちるの袖ハ

ちるまき桜ちるもいてるわく袖をとるもの

夢ちるよりとんくおもひのうちにちるもの　本曲
ちるハ桜とちるうちにおもひとおもひくしまと
ちるハの山ぶきも桜をくて刈べきやらうち

之孫ちるハ花ハ借やんてうちのくちる桜ハて
おもてわ桜しるんうハむてしてちきたるて
ちまくちるを花ハ也みちうちる花ハ乃東　万葉
いくちるハ桜ちくてうんはるとおもうちき
ちち芝の和とおもの俳ちるを俳ちあて
桜と桜をとれて

相れ木ちるうぶ桜のうち　ちも我

一書に元禄七自序云、今年の秋、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ヶ月丑 養老のあるじ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

月こそ梅のあるじ　伊勢の国　実邦

山吹咲く頃の詞書あり。春の月の梅の
もとにて神祭るとて感興なるべし

俊智撰集抄曰、その御つぼねに世をとりて
後、かの社に参りて、ちかひをなす。
仰せにまかせて、仏法を弘め、
梅の社をたてて、法華を修し給ふ。
おそれおほきかの宮、
うるはしかりけるかな。
梅流天皇正平四月皇后即位。
梅年とかし同礼拝の住し曰梅年四年梅村

新古今　なかつかさ　宇佐

なにはづの春の夜の夢ばかりなる
今の世をかねておもへば

考証　この歌、八代集、主の御代

利かとなりてのあけしこの寺を利とらばとなり忘れかな
よく代利をはるかとみすまるとなり

大神宮第　神うつり　丹

ちはやぶる神のみ代より

京の住吉の社の月とわ　僧仲宮　みな

樹下在上の住僧

ふるさとのおくの宮の月　丹波

ひとつなる宮は梅を共利す

あかつきの月ぞ　高田

梅の住吉を住て宮りきすることを
ひとなりしるとなれと今の世
家なりしと又高なる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月うせたる人の俤よりいそうろう　　和江

今宵ちぎりつきてもとまれて月をこそ
物思ふこころをわすれ物思ふ人はいとうきも
るるなれの月の俤ならぬ物をこそ

俤正のいとしれわるものきるくうろ　　高内

一書に云彼岸山俤正のうしれわれてものてよみてれたるものひもむ
きるくとときこゑまち

和俤や月の俤れ元俤ゆ井　　ん兆

世れをワるとこぐてゆくをとをとや

一夫や衣とやゆる　　おむくう　　玄年

ちゐ初也一夫いちのくに一夫より
八夫まてちゐ衣とゆゆるとゆ世れをゆ川の実
とゆるもの逆の逆張丹あるうるうるうるゆ
考一夫八南部俤ゆ曙ゆ牧へ花牧尾敦茗

空字もあるべきなるべしみちのくの奥正二十日と云ん三百空の
行程ちゐ衣とゆるうるとゆ

稈れ格のうるゆ　　ひうる中　　雄人

いちゐ衣て作ゆうるを西ゆる穴俤にけうる
ゆうゆ世れ感をゆうる

出稽やうふまて　ゆうるゆ　　茨高

田荻の秋ゆ稽の一字にうゆ

あやまりてきうおるゆ鏞ゆ中　　茨年

成義曰鱸ゆ才ゆ多ゆ鱸（かし）編魚形色似紙而口闊甚尾有小岐背黄白蛭
鳴人捕之長尺余日五紀之又似日岐し崖中食後鏞音容和名四
知々加布里以鮭而有黒色点也　公在之きくうハ俗ゆ蜂蛍とゆ
歌蛍サゆり我信ゆるゆハ　此魚鏞ゆ似て計アゆ中に五ゆて痛
ゆ一鏞とゆるゆ一ゆやゆて
ゆゆしゆゆるうる

一鳥不鳴山更幽

[illegible]　[illegible]

解脫[illegible]　[illegible]

むつうれ[illegible]　[illegible]

[illegible]　千里

山中の月和歌松[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この秋の初風にうちなびく　稲の穂　土芳

[illegible]

感美を古今集きのあつて宇治の[illegible]
まて秋風の[illegible]

稲の穂に　田よ出て[illegible]　元北
をされきまつの[illegible]
感せしを[illegible]

自然系稲の[illegible]

稲の穂に　稲ちの[illegible]　玄来

秋風の[illegible]
住てしも

[illegible]　稲の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

四条の河原のもとや　成美

人皇四十五代聖武天皇天平二年庚午鎮座延喜式年号有故合祭
平野の明神　孝謙天皇天平神護元年乙巳祭と不すハ神の明神と称し
なる所の宮と云し我朝に紙の始るハ此神五代天歴年の天の
神事にて初会の一神事にて奏
ハ紙にて出来る也　紙式に曰不出来也　白髪
天歴太神千歳替々春日の神三宮申雅久八住吉の神なり
すすりを三千神代のそのなる文字を我はすといへる所移
をなすと紙の事乗代八ものと　毎年九月十五日神事
紙あるとて　紙に上枝宗と小倉の合戦まで天永元年
紙すき紙にこれを少ヲ例にして隔年の乗れ始りて今は其ことく
京八幡宮に春日にて不乗乗　恒例紙の者ありけ人江戸にて下ゆて五位
一三年に一度の紙すき紙をつくりすき今まれとふれと云
さて内のことハ法作ものとなれの敬ち国を仕ハ行列を記
世とりてるるる

切れたまきるる　おる

立出れ秋ハ　ゆかるや　風ふるる　化地

成美日病悩毎日風痰咳一名麻痺人皮膚虚ハ風
寒所折別起也和名加佐保波久

世の中を御鈴かたれ　仝

人字のおかさまきるる　なつこの宮をを

らるる

恒冥の道にてやこうみや　秋ハ雪　若の今

道にてを不ハ仕や恒冥秋の感之恒冥

道にきもなくといへる

一書にたさみたさみ　ふすれも

春氏部

梅咲て人の怨れ悔もあり　秀佶

うしなひ人の怨れ悔もあり　秀佶

もゝ咲ておの世をこそ思ひ知れ

世行の君をおのつて実岩城の城主也

芝山曰梅を恨人師之系和歌に恨の梅

をなすと　上野の山寺よりとる作なり

梅ゝ咲や山路の雪の大のまつ　玄来

上野の寺の名所なる犬のまつ犬追をまつ

八幡宮とうるはしおはせる所なり何

敬上代仕てこれの山を仕作ーこれ入り出るあり

梅ゝ咲やこれ入る里の名所　白室

今人里ヲ角といふ信濃国名所寿

ちゝ千角のめぐり今出るといふ里の名なり

ゝ　むーー北外ーー梅ゝ咲ける宮ヲ

成美曰碧巖云猫墻見角使知其牛

初恋や昔ゝ咲て梅ゝ咲　土芳

一書に高岳あり人丈のめーとりて祠を祀て出高岳八梅の名所

し　寄蘇鉄ゝ詩に上野山人酔後鉄冠落溪女笑時銀

梅低我来觀政問風流皆云吹犬迎生登尾但恐此公相一見捨

此去長使山人索莫溪女暗　此溪女を上野に論

ーー梅ゝ咲ーーー夜ーー他ーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるれはなをしまは皆あく

一書に八重梅の枝に花咲て悔とあるを
後花を見さちて渡さきもくはるれ
処をとりみちる所よりはるかに
新宮の梅の花のちりてれを見て

梅の香やさけの入うるひれあるふしに　蝶夢

はるの書物の画の和歌をかいたる

梅の香やこの一ぬを　其角の乃　寒し　三角

其角俳諧をこのこと梅の山うけ
生きものの名をこめの一ぬを梅の香
重る書より高の

天保銭の後代梅あるべし

はるの雪　とを

一書に俗おもふ事不太神宮の神饌を生ずる女二伊勢神宮の門子
子良物を称する社家三人家ありて
一書に梅の木の名ちんへゆうーとをもて
梅をもて、女房なれもちて梅の
年始の花をもて良とす初祖のをもあの
侍の家用をもて侍をもし称をなをよ
冥加をもむきの世六十二ようをもて

成美云坂士仏太神宮
門子の家の
二十三十三十を月をもて
ちんへ別樹を辞す

渡義や俗をもの梅の　和乃梅　千那

なるを長ぶのやうく
ゆり梅ゆるせ　三方義をもまれる

一次梅をもて白梅をもてあるを　凡化

日ちをもれ梅さくこころや　春年三方　古西

[illegible]

暗香疎影月黄昏

八相のうめ　[illegible]

成美

武位[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 柳うら　卜宅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

横田川　柳ちよぶきて　高白

[illegible]

[illegible]

[illegible]　柳の葉　玄水

[illegible]　一峠

水のまきこまれて柳のたきいきまれ伝ふ也
うまれアヤ井出をわけ出をうるうたち

[illegible]　柳ちすまし　木白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　揚水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　玄成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋ふるさとあそこここきりぎりす　元北

かぶうるるくふるを三尺ばか

うけうりやぜにかの茶の花ちる　芭蕉

一書云一本に栄胡の示とまうす北ちく栄胡人名れくく

ちるものの名也ハちく

名月や池のそば　似柳花

ちり本三年日得風不揺元風自和故名曰独揺竹名曰

の立日を風とるるれてくくく

[illegible]

春日や　山もとの出る　[illegible]　　持雄

かるをよ張春[illegible]世をとられをとを

[illegible]

不性なやうきを[illegible]さをて　春の雨　　[illegible]

春の雨やみのしの雨の　[illegible]　　史邦

雨を[illegible]

[illegible]

春の雨のあるや　[illegible]　　[illegible]

性[illegible]

感を[illegible]

[illegible]　　史邦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成美曰江戸時代
三宮貴
俗郭　郭と綽名する対
を三国一山水きれい
とされるから郭八
花柳界のことを

ある俗のきふいー　元ろ　郭ろて

元北

もあ八名刹の地として元遊郭師八神おまさをいき出山
ゑ人八東山と宇治ハ神ます芦花翁仏俗と
芭蕉翁の文古の古代より芭蕉の庵の世さまを
ろてしをかきたるくまひのことされてくを人丈ろ湖
東林郭と宇宮ろ名ゆきハうれ社と称ふ
ろく人おくらるわ郭といふます八郭八郭ゆおへきれい
ろくとくを人の名ひろれるこれ郭ゆきおことれもう
郭ゆとしてろ郭ゆ俗ゆ名ひろるるく式俗のようあるまて
仏俗ゆろろ

三文の義東武名の中まあるれを宋ゆて御廿年の

後二の拍子ろれ義の中ゆ拍子ろ拍子ろて
世の拍子ろて
まろ又ろれゆろ拍子ろ代の義拍
ろ

おろろーや拍子ゆ拍子ゆ拍子ゆ　園風

おろろろおろろおろろおろろおろろ

ろろろろあろしくとろれろろろ中　ろ東

ろれん

ろれろ義ゆ

何九日朝八初ろ拍子ゆ由波拍代発日天四五中等ゆ千ゆの朝五而ゆ茶の朝ゆ夏ゆ
ろ

武用年略ゆ日ゆ穂ゆ

ろろろろ作人のゆろろ

ゆ拍ゆろ拍子ゆろ中ゆ拍ゆ拍ゆ拍

[illegible]

[illegible]

長屑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芝山曰郷琊代酔日佛[illegible]
枕借こ奉こ翻て精舎と云樞ハ扉のぎりこ文選こ注曰樞ハ所以轉而用也
字彙に曰業のうれを苫葺く　[illegible]
曰ハ軸也入相の鐘
[illegible]

弁地曰十四日月十六日の月也十八夜ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

一書こ[illegible]
[illegible]
下衛黄昏こ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

止　[illegible]

与　近江の人々をして[illegible]

[illegible]

和　[illegible]

代　[illegible]

又[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

誹諧猿笑註巻之下

一古注ニ曰ク服ハ布ノ名ニシテ漢武内傳ニ曰ク羽ヲ削リ服ヲ作ルベキ
白ニシテ光アリ以テ之ヲ服ハ仙ヲ学ブ者ノ衣ニ用ヒ羽ハ鳥ノ羽ヲ以テ代ル也

きぬ羽と刷めてくしけ　去来

きぬ羽ハ鶴の羽を用ひ服も大切刷よよ
つれ以ても花とてもすれ共ものをいむこと
ちゝんの対ニ用ひ雲慈時を
いよ〳〵刷よといふ字まの玉造れる
ゆふ白の中よりもて妙なる作者の
もゝ白者もはとハ格言ニ白ハ
ゝきこゆ　始ニ　あれ
かいはくらゝ

役行ゝ　川ゝえて　化北
ゆゝ　ゝ仙
ゝめゝ　ゝ服　張乃ち
ゝ扇　主邦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或書に虚空の名をしるしのるて若人の伝をしるべし

この春し虚目り男

け男れ奉ゑ母を左ゑ伝し　邦

体々ニ虚空　唐ゑて若徒の著

さ木ほまるる月れ、秋　水　北

音木を母の虚空ゑ

若ゑるゑ女れ

おれれ体孤ゑ

未

ゑ

ゑ

ゑ

○古注ニ曰ク新の字の字の侍之原ハ紙の美ナルヲ云ナリ　北

ふびんなる。情をかけて事にもつよく体

わさとうやものわざのつよく体

たゆまぬ　こまやかを　松殺　多のかきれ

とうてこまやかひきみて　事ハ

おもしろ

いつくや　別りの　末

優美なる　花列　ちらん

さらはれ　惟光　ぬつよ

ぎまれ　ぬれ　ぬらぬ

なをさ　ぬ　ぬ

ぬりもの　ぬ

やさしうらとわまもり　北

ちとけ　松

ちとけ　おの

ぬれ　ぬ

ぬれ　ぬ

ぬれ　ぬ

一書之踊鞠のかゝりとて夫と赤き糸にて霊之形ちなりとて
伝元さまざまなるかゝりきまりなるもの多し良の山はしの赤きて張所之
しるしとなるらんかゝりまりに赤れ　朱
なおれ用をはて　雑色糸にて結ける
次れなりとの張りの　結ける
場と定めて鞠　しるしこれ三ノ相色
仍なを附

一うるく鞠はくるくるとこれをそ　北
鞠を作るに先はなを結く個上まりの
まるを赤きと志をんとまりとまりを体也
一指を所を無七

枝把　れ　右はなを赤きを芽をそなれ　邪
中ノ極市なるれを四月より紫を云のとす故よ
右をまりとなるなり

市中ハもれ市ハひやをけり
もを白結署れ体　れ　北
ちゝ〳〵と　州〳〵れあり
市中よりつく初ノ白と三筋の一中を連綿
二ノ多くさ有し果さ中　枝をもなり　玄米
世作いかりを真身之方ノ心をそ赤白と
なるなるなあり
一次〳〵ちゝ〳〵ゆめ一　教　心
黄市れ結ちくとそをそ一ウムメハ鄭の
市ヲ刻十をれヲ毋後ナヨリ後ノ市ヲ
いさ〳〵

[illegible]

旅人の伯母刺史の亡妻を悲しびて作れる歌一首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

解人 [illegible]

菅丞相は無実なる吹聴せられ [illegible] 東

[illegible]

[illegible] 北

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唐うらしの

[illegible]　末

天井の家をかたちなおしてけるとおもふ

こゝろ〳〵草庵を作るを枝さし　北

あるかたちをしまるる

蛍をゆるひのたゝ枝

[illegible]　末

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一本秀歌の書こゝ板の所なるて花ハ去れども花の所なて板をさて去の陰をて玉剣
沼角の金云の　　土佐
きゝ〳〵目を上　紙俗を紙とて　　孝行
　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜り下　出羽

[illegible]　殘

[illegible]　等

[illegible]　殘

[illegible]　殘

[illegible]　殘

[illegible]　雜

第九十五　左京大夫顕輔

おなじ世の月を詠ませられける

ふるさとの月やあはれと思ふらん　ながめし人の影をとどめて

[illegible]

第九十六　前中納言定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

斬ちくれ岩根ある　根はあり　千那

細腔れ　[illegible]　玖須

[illegible]

[illegible]

芝山曰自馬屋谷の丈夫の孫トなりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月かげや海とも成て涼　正秀

[illegible]

[illegible]

清さをの水に　柳坡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

愚考之を八方位の人山城の名月日の書形を古来とするの名こと古来を抑の来歴物と
古来をつれんれハ　書ハ形を土来歴
古来年号はの中のあ小枝を八山ちのとを
る小行を花　ふくろうれやくの羽田麦　之道
山城の名月日の書形を
てよきの所を名
宮ひとをまのひこひと　ふ槍枝ふ作茶屋
ひいそきの御情ひくくの所をてなひやる感ふう

書言
愚考新氏安覚日信宗四月の名ひ仕法をしあ九十日七日を以て解
よきをとくの一茶又山ちをくふ　梅木に　魯所
張春もきと九十日の名人茶屋作日和
山と言りて枝をもむと　山ハやうて切
書言をちるく〜
愚考カザを良書ちく　聲と書て
ふうとうく〜　夕ふうや　梅木ハ臭ハ　及肩
清を聲と云　茶屋作日南を名るおろ　ハ山ハ

咲と書なつ時作宗世梅を　梅ハ臭を
ハの感咲
屋根腰掛
世風や　田上山　ハふちちとく　尚白
茶屋作日田上山よ　ちかをかれちかく
此ちハ世ハ住宗よ　ふちとく秋の
感し
猶公義
ふてふのもすくあ　みハ　行来ふる　北枝
五七五ハ付ぼひ　作中作ふ　武人
日枝ハ上の枝　ふれ　公義ふ　日
ふてふ　城のもくこハ　少枝を法の
くらハくふちの

木下[illegible]

山茶毒[illegible]　木下

白紙に墨

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

幻住庵記

元禄

石山の寺を出て国分山を過ぎ、岩間の茂り合ひ、木の実落ちて、拾ふ人なし。

（江州栗太郡田上山の麓、岩間寺あり。行基の草創、聖武の勅願、丈六の観音、東国第十番の霊場。元正天皇霊亀五年秋八月、諸国を巡り給ふ。）

茨生ひ、蔦からみ、道もなし。

（行基の草創、聖武の勅願、丈六の観音、東国第十番の霊場。）

八幡宮、又、石の上、苔むして、神代のいにしへ思ひやられ、

（八幡宮、又、石の上、苔むして、神代のいにしへ思ひやられ、）

一丈ばかりの山の形、美しく、おもかげ微かに、

（一丈ばかりの山の形、美しく、おもかげ微かに、）

神体、仏陀の区別なく、唯一の宮柱ふとしく、岩に根をはり、

（神体、仏陀の区別なく、唯一の宮柱ふとしく、岩に根をはり、）

幹天を凌ぎ、枝葉四方に覆ひ、霜雪を経て、千歳の緑、こまぬきの姿、

（幹天を凌ぎ、枝葉四方に覆ひ、霜雪を経て、千歳の緑、こまぬきの姿、）

何ものか、人間の業とは思はれ侍る。

（何ものか、人間の業とは思はれ侍る。）

日こゝの人の語るを聞いて拾ひ集めしものなり侍り住てしゝの
戸ばりよりは根笹を引て狐狸のなかを防
ゝ幻住庵よりは石山の麓伊賀の一ゝを富士茅沼氏曲水子の伯
父ゆゑもむかしの今を人身ゆゑもしかの幻住庵の名を
のみはとゞめり（一書に芭蕉翁曲水子の幻住庵の名を惜所蔵なり多八部たゞ二字金蔵寺拾山抄）

予又
京洛をさること五日を経て五年を経て
京東金のみのゝ家に切年の春をむかへ
白の夜を父母と寄あり（松尾氏曰古今三月
此年ちゝはゝ世をはなれ
ぬ　あをそらをかこちをれり

京相模守殿の長きを日に面をさらしこゝろをとゞめ
北海の長路なき涙を残して（安味堂曰殿を略ス
ひきて殿をこゝろきこゝのるを
一説に京相模守殿の長きを日に面をさらしこゝろをとゞめ
あやまりなるべし　何ぞ　相模八五月のこゝろあるべし
相模守殿の長きを日に面をさらしこゝろをとゞめ
殿の長路なきを涙を残して　何ぞ　相模ハ一作しおきさ
殿の長路なきを涙を残して　又京相模守殿の長路を惜すゝ
こゝろを京相模守殿の長路を涙を残して　何ぞ　紙をるをこゝろ
京相模守殿の長路を涙を残して　何ぞ　相模ハ長路の誤なるべし

今歳湖水の波
ふるさと比叡の落葉の深きを分るべき苔の比本の信をたのみ
行潺湲き流るゝあこの木ゝ根株を枕として分入の
山のそなたに出ると入ぬ

芭蕉書屋

山寺に立て石の上にしばし侘ぬれば
蟬の声岩に染入るかと
字書曰鳥在巣曰窠在水曰巣海巣大和本草曰鵜ノ字書云好入水食魚
俗鳥小ノ本性鵜鶘ヘキライモカイツリトンヘシ信ニ鳩ノ字ヲ用ル万葉以下ノ古歌ニ皆
鳥ヨメル是ニ水上ニ住ル鳥ヲ称
ル也ト隨ト漢ノ

さそふ水あらばいなむこがらしの
のちを山茶花咲かりけるとかや
伊勢ノ国ノ名所也
伊賀ノ国ノ名所也
伊賀ノ国ノ名所也
伊賀

蟬丸山と云ふ山のひくくうつ[illegible]
れをとく伊をちくこと上の山りたのもし法印竟存

田上山よりたかくを

ふさて吸ふ嶽千丈の峯後鶴ふ山ち

一書に接丸太夫又略也ゆうと
世世てたのうてまもむ

成実云 云名拘こ田上のもよたたくとふあちそこと接丸を夫のうをつり花の像よて
れこの夜りよのされハ人ちちわ一名あ苔と田上のさふうけとちうめも
いるやあしのもとち一ゆくむ 後九条歌

思ひのまをいとふうをて何代ちみそとよみ

ふむ名苔苔の深のうちう

仁のあ丸太何ちあるうをとあるる新撰万葉のてあるち久老麻生口答夫の云
古ち苔ハ十に表記伊かえ上なしをらひなて
ちれハいすをとなりたりせたの中にもひふむをめう

狂歌

ちうぶむと後の峯ふ迄のちて松の枯枝葉の糸庭を表て猿の腰掛

と名民く彼海蒙に蒙をいてる比主薄峯に菴を住へる王羽徐俊ち

徒ハあらに

山ちの付木徐菴住蒙蒙上王公羽主薄峯菴住ち云徐俊樂道
に敬蒙律中宗有法蒙教授結苔上時ち宮蒙約千ち又主を
久参ち後に主ある時住ち新王二薄峯上嘗南北人至千ち四道何丸太主ち
書ハ非と主薄ち名ち日の庚名ち て江西ノ盧陵郡よりあり木宮ちと不
けちこと五ちり 脇千ち白毛ち帝ちを主薄と不けちの毛歌ちあれも
ち主ハ薄峯と不ちとハ能ちと丹ハ美能ちいちこと

唯腰辞山民と成て

辞史日本よ山表毛腰ちとぬめらくとちまち今民
一ち名表能ちて云我好ち一居ち公ハ或居ちと不全ち開夜伝日花竟夫上腰眠
けちり五雑組日腰ち嘗ちり皇ち和尚ち先杜牧千ハ或ち皆ち何辞近付張ち
有腰ち能又陸放ち腰府のけちり
能ちちとちとちらに

居ち新ち堂ちちち付出し居ち新ち山ちちち
能ちち

芝山日 王子端ちよ山ち剃啄之住ち云徐ち
一書ち東坡楊衣ち居能

定山と氏書

打て在人 石林ち後日ち山打出ち
王ち刑ち山 打出ち対ち山 狂書城北園

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとひ今世の行末を祈る

[illegible]

[illegible]

一ふしハ伊勢祖宮の歌よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猿蓑者芭蕉翁滑稽之首謔也（何晏考史記滑稽者伯考物云滑稽酒器也言出口成章而不窮竭若滑稽誓之吐酒也）（成章ハ成美白謔ハ字彙ニ嘲ノ俗字ト云ヘリ　嘲ハ響同也字典云廣韻ニ）

神人暢有韻在坐執（伯考猿ニ云ヘリ六窓一猿ノ名ヲ吟ズレハ首韻ト書ハ非ナリ首韻ハ江戸時代ノ謔也）

非比彼山寺偷衣朝市頂冠笑只任心感物写興而已矣

（一書ニ漢室狙戴鵲冠笑朝市金囚狙偷衣感流徒土ノ外猿ノ説〳〵まち〳〵ニて記サレタルヨシ）

洛下逸人凡兆去来随翁游遊子棋鼓竹窓鼠等凌

節無斯有歳雪撰此集玩弄無已自謂絶起孤疲白裘

芭蕉書屋

者也　愚考孟嘗君の狐腋の白裘直千金なりて天下妄
双なきを幸ひとなりて秦の囚を逃れしなどの名裘
なり王褒曰千金の裘一狐の腋なるべし初唐の張説の裘
は絶死なりなり或人難して云天下妄双の白裘は移しなり人
めなるべしと日千金の狐をこらして一人の為に死せしめ
て宝とせるはいとかなしき事ハまよひなく人間の白裘をもて
狐の腋とおもふ仁情因日の論なるべしなるべし又て裘は公裘を
を会やるハ千金の狐の腋下の毛を絶ハせるを千金のうるし
なりなりて一公裘の形をなること文感ふ絶えるこれハ古て倫衣項
冠の父ひは比するこなるなり

於是四方唫友憧々往来　愚考憧々ハ行て絶さる形なり

或千里寄書〻中皆有佳句日蘊月隆各程文章

然有昆仲騰士不集録者　愚考昆仲は昆弟なり昆仲
又は伯父なり昆弟ハ

詩惟然等を素堂佐徳無倫等を素堂仲
の友なりなりをおのくなりを比集なるを迎なりなるを同親の昆仲
なるなるを迎ハ文なるを又
又偽なるなり

雲居窟栖為雅通信　雲居を窟栖の雅を

雲居は文書通なり

且有旋便婦人不琢書者

麗言紛信為嘉同志難妄至其域何乗其人乎哉

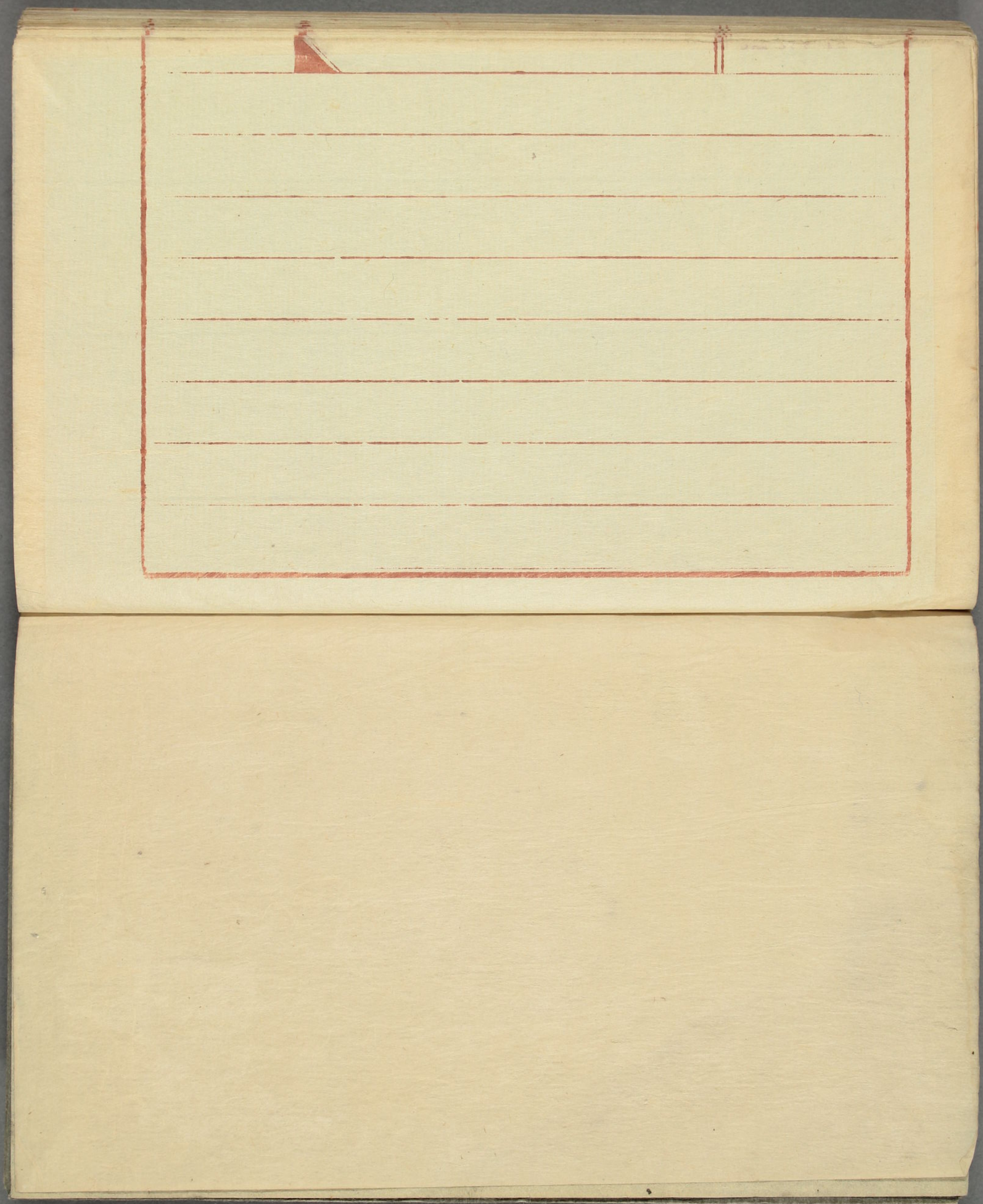
旋便を旋なるなるなるな

たびびと

維時元禄四稔辛未仲夏余掛錫於洛陽旅亭
偶會兆来吟席見而証此度題香尾軍援亳不揣
拙筆一蓑高張有補于詞海漁人云

時の古さよく稔て穀一熟の季よりと香尾と書たる王元之曰
大張一網四海辞英

越人の不猫地に接技の剖りけとふ書よ云流さるみのそ元禄七年の夏
伊勢の東村兼高まて伊勢ぐ先所のまそ侍て七八の四月の四日密撰く
えのを四月花猫みの宮なを花出夫信は集の庵をはきをへて祇園一代の法華
経まて仏夫の日まをおのしてえをくて何男子院さるみのそまて祇園
一代の法華経ふ舌を祇園密撰の書よ箱減後の句くなるを
いふ猫先の窮文をなるまの書此句院よ安信をえるを再入
きーを年以四月ろくをて又和猫をの代実をなくをを死を
猫の殺をなる猫みの山をを祇園一代の艶脳の十義実全く

伊賀蕉人の角座此一紙さうまに先ゐ以て序の句
ずて自筆を揮ひ給て出侯の雇を補ふて拙く文句の云まる
ち〻信侯をそて紙のうまさう世家侯とてまる雇をいはつハ
かゝれものおのらにさて又続さるみの紙をむるてさるみのまれ
ゝる雇の杖おらる汁句をおそて蕉人の出そて
書れうゝあらむ〻おもひて句の句をとて蕉氏とものるむ
さるおそて書を仕るの法おけそれ間の杖を蕉氏をむるて拙ろ
の句入やきを仕こうまれ句のお侯おのらさるてのを以句ず

侯さるみの、序氏能語の集氏ろるの吉を西やをとろ氏
眼を付奉〻〻